

事業報告

令和 5（2023）年度



社会福祉法人 福島いのちの電話

いのちの電話とは

☆ 様々な問題を抱えながら孤独の中で、相談する人もなく不安な生活をし、精神的危機にある人たちが多数います。このような人たちが自殺の危機に追い込まれることがあります。

「死ぬほどつらい、誰かに聴いてほしい」と。

☆ ひとり悩み苦しんでいる人たちが、私たちのまわりには数多くいます。「いのちの電話」は、このような人たちに電話を通じて心を通わせ、よき隣人として相談相手となって励まし合うボランティア活動です。

☆ 「いのちの電話」は1953年ロンドンで始められ、現在では世界の主な都市に設立されています。日本では1971年に東京に開設され、現在は全国に50のセンターが設置されています。6,500人以上のボランティア相談員が年間約70数万件の相談を受けています。

☆ 「いのちの電話」は、特定の宗教や思想・信条などに左右されず一人ひとりのいのちを大切にして、悩んでいる孤独な人たちのよき隣人として、また相談相手として、共に生きる輪を広げていく運動です。

☆ 相談は、専門家による約2年間の研修を受け、認定されたボランティア相談員が担当しています。相談の秘密は厳守いたします。

目 次

1. はじめに	1
2. 福島いのちの電話概況	2
3. 「福島いのちの電話」が受けた相談について	3
4. 令和5(2023)年度事業報告	8
5. 令和5(2023)年度資金収支計算書・貸借対照表	12
6. 令和6(2024)年度事業計画・資金収支予算書	16
7. 組織図	17
8. 役員名簿	17
9. 令和5年度ご支援下さった方々	18
10. 寄付金等でご支援下さった方々	26
11. 各種団体等からの補助金・助成金	29

はじめに

皆様には、日頃より福島いのちの電話の活動への深いご理解のもと、格別のご支援をいただき心より御礼申し上げます。お蔭様をもちまして、福島いのちの電話は、365日無休の〈通常電話相談〉のほか、毎月10日の〈24時間自殺予防フリーダイヤル〉、そして「メール相談」及びジョイントさせた〈ふくしま寄り添い「予約制」フリーダイヤル〉、さらには「SNS相談トライアル」など、ICTを活用した相談事業を恙なく実施することができました。これ偏に、会員はじめ多くの皆様方のご協力の賜であり、改めて感謝申し上げます。

さて、令和5年における全国の自殺死者数は21,818人で、令和4年より63人の減少となりました。男女別では、男性が前年を108人上回った一方で、女性は3年連続で前年を上回っていた事態に歯止めが掛かり171人もの減少となりました。このことは、新型コロナウイルス感染症が第5類に移行したことから、「元の生活」に戻れるという解放感がもたらした結果ということが、少なからず考えられるところでもあります。

翻って、福島県状況をみると、前年を10人上回るなど2年連続の2桁もの増となっており、これは10年振りのこととなると共に、自殺死亡率にあってはワースト4位という極めて憂慮される事態となっています。

いのちの電話は、独りぼっちで悩み、その辛さに打ちひしがれている方にとっての「良き隣人」として、その苦しい心に寄り添い、心を聴くための電話相談でありますことから、この現実をしっかりと受け止め、なお一層活動の充実に努めなければならないと痛切に感じさせられているところであります。

こうしたことから福島いのちの電話としては、相談ツールの拡充を図るためICT時代に対応した「SNS相談」を本格的に実施すると共に、ゲートキーパー養成にも取り組み「誰も自殺に追い込まれない社会」の実現に貢献して参る所存でありますので、引き続きのご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

ここに、改めて皆様のご厚情に対し心より感謝を込め、令和5年度の事業活動等のご報告を申し上げます。

令和6年6月

社会福祉法人 福島いのちの電話

理事長 丹羽 真一

福島いのちの電話概況

- 設立：平成9（1997）年9月1日
社会福祉法人認可：平成15（2003）年8月25日
- 組織：評議員8名、理事8名、監事2名、特別顧問2名、
顧問8名、会員1,679名
- 電話相談員数：令和6年4月1日現在：91名（実働81名）
電話相談件数：（令和5年4月～令和6年3月）：8,983件
電話相談時間：【通常電話】：毎日10：00～22：00
毎月第3土曜日10：00～翌日10：00まで24時間
【日本いのちの電話連盟「自殺予防フリーダイヤル」】
毎月10日 8：00～翌日8：00まで24時間
【ふくしま寄り添い<予約制>フリーダイヤル】
毎日 10：00～22：00（但し、3日前までに予約）
【日本いのちの電話連盟「全国ナビダイヤル」】
毎日 10：00～22：00
- 相談受付回線数：2回線
- メール相談：ホームページから相談フォームへ。原則、5日以内に返信。
- 相談員養成：相談員養成研修第1課程・第2課程・第3課程（インターン研修）
- 継続研修：全相談員対象、全体研修（年2回）、グループ研修（年10回）、スーパーバイザーによる個別指導（年1回）
- 運営：年間予算約17,000千円、財源は主として会員等の会費、寄付金、県の補助金及び公的団体の助成金
- 全国組織：一般社団法人日本いのちの電話連盟
加盟50センター（令和6年4月現在）

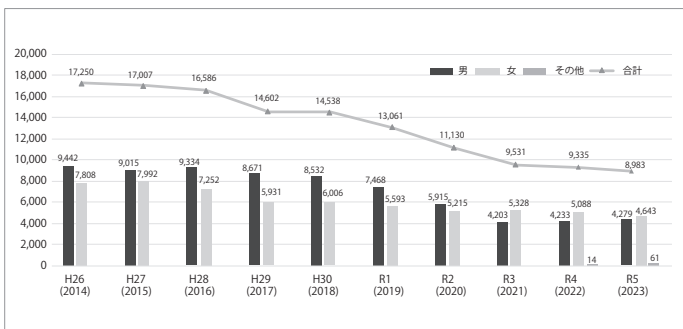
『福島いのちの電話』が受けた相談について

平成9年9月1日の開局以来、令和6年3月31日までに福島いのちの電話が受けた電話相談は359,641件で、1日当たりになると36件ほどになります。しかし、令和3年、4年、5年度と1万件を下回る事態となっていますが、これは新型コロナウイルスの蔓延による相談員周囲の事情や自身の体調不安などから、相談電話の担当が大きく制約され、ここ3年間、取り分け令和4年度は、最多であった平成25年度（18,194件＝50件／日）の半分以下の8,983件（25件／日）の対応となってしまいました。因みに、この間においての電話相談の状況は、従前とは異なっていることがデータとして現れています。

福島いのちの電話への電話相談は、開局当初から男性の割合が絶対的に高く、平成29年度にあっては男性59%、女性41%という状況でした。ところが、コロナ禍によって一変した世相を反映したのか、令和3年は男性44%、女性56%と逆転し、令和4年度も男性45%、女性55%と女性からの電話相談が、圧倒的に多くなっており、引き続き令和5年度も男性48%、女性51%と女性からの電話相談が多くなっています。また、LGBTQと言われる性別が特定できない「その他」の件数が61件となり、これは前年の5倍ほどにもなっています。

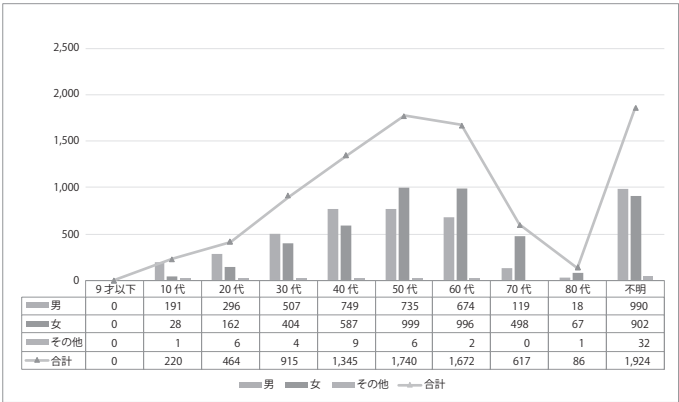
過去10年間の年別相談件数の推移

	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1年 (2019)	R2年 (2020)	R3年 (2021)	R4年 (2022)	R5年 (2023)
男	9,442	9,015	9,334	8,671	8,532	7,468	5,915	4,203	4,233	4,279
女	7,808	7,992	7,252	5,931	6,006	5,593	5,215	5,328	5,088	4,643
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	14	61
合計	17,250	17,007	16,586	14,602	14,538	13,061	11,130	9,531	9,335	8,983



○相談の年代別状況

相談件数を年代別にみると、全体では50代が最も多い1,740人で、不明を除く全体の24.6%、次いで60代の1,672人で全体の23.7%、40代が1,345人で全体の19.0%となっており、この3世代で全体の約7割を占めています。なお、10代、20代の若い世代の電話相談の状況をみると、不明を除く全体の9.7%と昨年度と同様な形になっています。



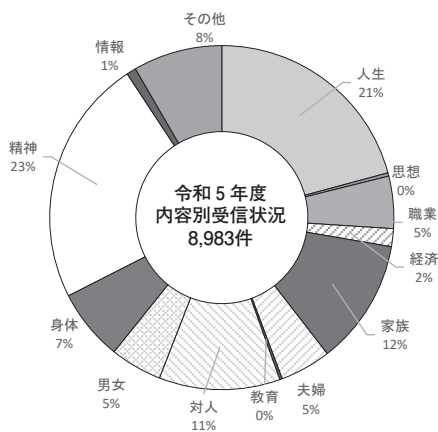
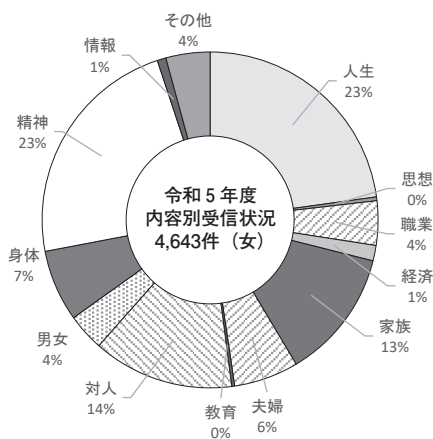
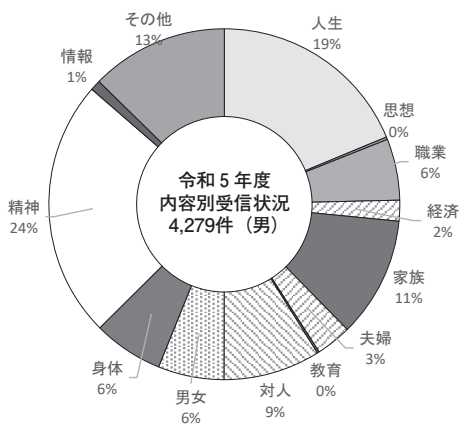
○相談の内容別状況

日本いのちの電話連盟の相談内容分類に基づく分類では、「その他」を除いた割合でみると、「精神」25.3%、「人生」22.7%、「家族」12.9%の順となり、この3つで、は相談内容の6割を超える状況にあります。

なお、「精神」の項目が「人生」を上回るのは4年振りのこととなりますが、ここ4年間はコロナ蔓延という社会的不安から、「人生」の小項目となる<孤独><コロナ>に関する相談が多くを占めていました。しかし、コロナの5類移行が影響したのか、令和5年度は、再び「精神」の中の小項目<うつ><統合失調症><自傷行為>などの相談が多くみられるようになりました。

令和5年度相談内容別受信状況

	人生	思想	職業	経済	家族	夫婦	教育	対人	男女	身体	精神	情報	その他	合計
男	802	10	242	82	475	140	8	382	260	276	1,019	41	542	4,279
女	1,059	17	198	69	581	289	13	631	166	320	1,064	39	197	4,643
その他	8	1	1	0	4	1	0	9	11	9	4	0	13	61
合計	1,869	28	441	151	1,060	430	21	1,022	437	605	2,087	80	752	8,983

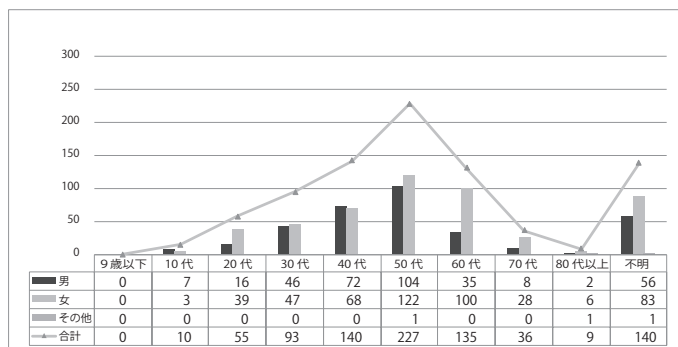


○自殺を訴えた相談件数

電話相談の中では、「生きているのが辛い」「消えてしまいたい」「生きている意味が分からない」など、自殺傾向の強い言葉を聴くことも少なくありません。こうした自殺傾向のある相談件数は845件で、全体の9.4%で昨年より2ポイント減少しています。

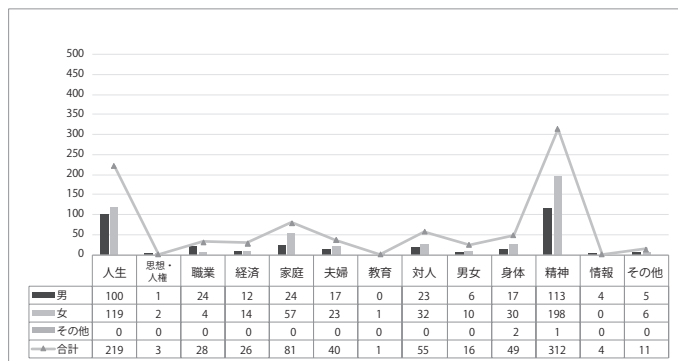
○自殺傾向の年代別の状況

自殺傾向の年代別の電話は、不明を除いた全体でみると50代が32.1%、次いで40代が20.0%、そして60代の19.1%と続き、この3つの年代で全体の7割を超えています。年代別自殺者数において、福島県は全国に比較して80代以上が高くなっていますが、電話相談でも「自殺を訴えた」80代以上の方が、昨年度の1人から9人と大幅な増加となっています。



○自殺傾向の内容別の状況

自殺傾向の電話を内容別にみると、「精神」が全体の36.9%、「人生」が25.9%となっており、この2つで全体の6割を超えています。中でも、「精神」にあっては<うつ>、「人生」にあっては<孤独>が大きな比重を占めています。



○ふくしま寄り添い＜予約制＞フリーダイヤル

この電話の特長は、3 日前までに予約設定をすれば、予約設定時刻に「こちらから電話を掛ける」、つまりアウトリーチ対応となることです。

＜予約制＞F D 受信状況

(2024. 3 .31現在)

令和5 年度	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	累計 (件)
着信件数	19	36	28	20	21	12	13	20	10	21	32	29	261
予約件数	6	6	5	1	7	5	4	3	2	7	11	11	68

○福島いのちの電話「メール相談」

この相談の特長は、相談者に対し 5 日以内に返信文を送信することと、＜予約制＞フリーダイヤルとジョイントさせていますので、リアルタイムでの相談も可能になることです。

メール相談受信件数

(2024.3.31現在)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計 (件)
受信件数	3	6	6	32	20	17	20	16	16	10	14	20	180
返信件数	3	5	5	20	13	13	8	14	13	5	5	7	111

* 月の受信件数と返信件数の乖離は、①相談内容の確認、②予約制 F D の連絡、③返信が翌月。

令和 5 (2023) 年度事業報告

I 主要事業の活動状況

1. 電話相談

(1) 通常電話相談 (024-536-4343)^{しみじみ}

・受信時間 (毎日) 10:00～22:00

・毎月第3土曜日 10:00～翌日10:00までの24時間

(2) 日本いのちの電話連盟「自殺予防フリーダイヤル」に参加^{なやみ} (0120-783-556)^{こころ}

・毎月10日～11日 8:00～翌日8:00までの24時間

(3) ふくしま寄り添い<予約制>フリーダイヤル (0120-556-189)^{こころ いちばんはやく}

・毎日10:00～22:00 (但し、3日前までに予約。予約時間に、こちらから電話を掛ける)

(4) いのちの電話「全国共通ナビダイヤル」 (0570-783-556)^{なやみ}

・毎日10:00～22:00

* 電話受信総件数 (令和5年4月1日～令和6年3月31日)

○総件数: 8,983件 (前年 9,335件)

＜うち自殺傾向の件数: 845件 (前年1,063件)＞

＜内訳＞ 福島センター 4,636件 (前年5,472件)

《うち自殺予防フリーダイヤル 419件 (前年 454件)》

郡山分室 4,130件 (前年3,737件)

いわきサテライト 217件 (前年 126件)

○ふくしま寄り添い<予約制>フリーダイヤル 68件

(アクセス件数261件)

2. メール相談

・相談メール受信数 180件 返信文作成数 111件

相談者実数 36人 (男14人、女20人、その他2人)

3. 相談員養成研修及び継続研修等

(1) 第25期生養成研修 第1・2課程 4名

(2) 第24期生養成研修 第3課程 3名

(3) 相談員継続研修 (相談員全員対象)

ア. グループ研修 (継続研修): グループを構成し1回/月実施 (全体研修の月は無)

イ. 全体研修: 2回開催

① 7/2 (日) 「多数回通話者の理解と対応」

講師: 加藤博仁 (札幌大学講師)

② 3/10 (日) 「相談員のケア」

講師: 鉦鹿健吉 (メンタルヘルス工房)

ウ．個人スーパービジョン：全相談員 1 回／年

4. 相談員の認定

- (1)継続委嘱相談員数 91名（令和 6 年 4 月 1 日現在）
(2)新規認定相談員数（第24期生） 3 名
(3)実働相談員数 81名（令和 6 年 4 月 1 日現在）

5. 公開講座の開催

・春季公開講座（相談員募集説明会）

回	月 日	場 所	講 師	参加者
第 1 回	5 月13日(土)	郡山市福祉センター	福島 L I 理事 玄永 牧子	26人
第 2 回	5 月20日(土)	民報ビル「ゴールド」	福島市常円寺住職 阿部 光裕	32人
第 3 回	5 月27日(土)	民報ビル「ゴールド」	仙台 L I 研修委員 佐藤 智昭	19人
第 4 回	6 月 3 日(土)	郡山市福祉センター	筑波大学教授 齋藤 環	50人

6. 財政基盤の確立

- (1)会員寄附金（会費）収入 6,400,592円
(前年度実績額 6,739,028円)
個人会員 1,991,000円（同 1,750,000円）
法人会員 1,528,000円（同 2,045,233円）
賛助会員 2,881,592円（同 2,943,795円）
(2)一般寄附金収入 1,905,746円（前年度実績額 1,701,383円）
(3)新規会員の確保
令和 5 年度新規会員数 34名
令和 5 年度末会員数 1,679名（令和 4 年度末1,651名）
* 令和 5 年度会費納入会員数 890名（53%）
（令和 4 年度＝50%）

(4)補助金・助成金等の実績

- ①福島県自殺対策緊急強化事業民間団体補助金 4,200千円
②福島県新型コロナウイルス対策事業民間団体補助金
4,000千円
③福島県共同募金会配分金 300千円

7. 広報活動の推進

- (1)広報紙「特集」秋号（62号）及び春号（63号）の発行
(2)相談員募集広報の展開
①公開講座広報と併せて実施（民報、民友新聞等）
②＜予約制＞F D ・メール相談に併せ実施（民報、民友、リビング新聞、ラジオ）

(3)ホームページの充実（適時適切な情報を頻繁に更新）

(4)ツイッターの内容更新

8. 支部活動の推進

(1)郡山支部 総会等の開催 <コロナ禍により書面総会>

(2)喜多方支部

① 総会 令和5年6月22日 喜多方市総合福祉センター

② 講演 「人々の苦しみに寄り添った傾聴」

(長照寺住職 楠 恭信)

③ 研修 令和5年10月26、27日

全国相談員研修会「ふくしま大会」

9. 電話相談に関する調査研究

・「相談員のケアに関する調査」結果の取りまとめ

10. ゲートキーパー養成事業

・令和5年度ゲートキーパー養成事業

受講者総数687名（昨年受講者総数657名）

(1)ゲートキーパー講習プライマリーコース 25名（会津大学）

(2)ゲートキーパー講習ステップアップコース 28名（会津大学）

(3)プレ・ゲートキーパー講習 634名

若松商業高校（25名）、須賀川市学校保健安全研究会（110名）、福島市（84名）、伊達市（2回、65名）、二本松市（60名）、南相馬市（25名）、田村市（20名）、西郷村（2回、150名）、柳津町（30名）、塙町（35名）、平田村（30名）

II 役員会、各委員会等の活動状況

1. 理事会、評議員会

回	期 日	理 事 会	評 議 員 会
第1回	令和5年 6月4日	①令和5年度補正予算専決処分 ②令和4年度事業報告・決算 ③「ふくしま大会」収支予算 ④新役員（理事・監事）の推薦 ⑤評議員会の招集	
	令和5年 6月22日 【書面決議】		①令和5年度補正予算専決処分 ②令和4年度事業報告・決算 ③「ふくしま大会」収支予算 ④新役員（理事・監事）の選任
第2回	令和5年 6月22日 【書面決議】	新三役 （理事長、副理事長、業務執行 理事）の選定	
第3回	令和6年 3月9日	①令和6年度事業計画・予算 ②令和6年度SNS相談実施方針 ③評議員会の招集	
	令和6年 3月19日		<第2回評議員会> ①令和6年度事業計画・予算 ②令和6年度SNS相談実施方針

2. 各委員会等の活動及び各種会議の開催

(1)運営委員会 おおむね隔月ごとに、年間6回開催した。

(2)各委員会

総務財務委員会、広報委員会、研修委員会、相談委員会、調査研究委員会、公開講座実行委員会を定期的に開催した。

(3)認定会議

令和5年6月14日 第25期相談員養成研修受講生審査5名

令和5年10月14日 第24期生3名認定

令和6年3月17日 第25期生4名仮認定、更新認定91名

Ⅲ その他事業の実施状況

1. 相談電話システムの更新

ICT化に伴うシステムのバージョンアップが為されていることから、耐用年数7年の経過による「相談電話システム」の更新を福島県の補助事業として実施。

2. SNS相談トライアル事業

自殺率が高止まり傾向にある児童生徒を含む若い世代のコミュニケーションツールが「SNS」に特化していることから、将来の展開を見据え長期間の休み明けの5日間にトライアルを実施。

3. 第38回いのちの電話全国相談員研修会「ふくしま大会」の開催

コロナ禍で3年連続中止となった全国相談員研修会を10月26日から3日間、郡山市ホテルハマツにて開催し、相談員関係者507名、一般聴講者等を含めると668名の大会となった。

4. 福島支援プログラム（日本いのちの電話連盟事業）自殺防止対策事業 ＜事業費4,000千円＞

1. 「ふくしま寄り添い＜予約制＞フリーダイヤル」 アクセス件数261件、通話完了68件
2. 福島方式「メール相談」 相談受信件数180件、返信文作成件数111件
3. 続ライフイベント・ストレス「レジリエンス五・七・五」（小冊子）作成・配布
4. ゲートキーパー連携センターの運営（ニュースレター＜季刊＞の発行）

令和 5 (2023) 年度資金収支計算書

(令和 5 年 4 月 1 日～令和 6 年 3 月31日)

〈収入の部〉

(単位：円)

科 目	決算額(円)	摘 要
会 員 寄 附 金	6,400,592	個人維持会員、団体維持会員、賛助会員
一 般 寄 附 金	1,905,746	県民共済、篤志家等からの寄附金
福 島 県 補 助 金	8,200,000	福島県自殺対策緊急基金、新型コロナ対策補助金
共同募金分配金	300,000	共同募金配分金
受 講 生 負 担 金	1,556,300	24期3名、25期6名、支援プログラム
受取利息配当金	153	預金利息
そ の 他 雑 収 入	12,165	
合 計	18,374,956	

〈支出の部〉

(単位：円)

科 目	決算額(円)	摘 要
事 業 費	8,606,208	相談員養成・継続研修、ゲートキーパー講習、メール相談等
事 務 費	5,418,024	賃借料、通信運搬費、会議費、連盟負担金、事務諸経費等
人 権 費	4,563,732	非常勤5名、事務補助パート3名
当期資金収支差	△ 213,008	
合 計	18,374,956	

*連盟事業〈福島支援プログラム〉＝4,636,000円

＜予約制＞FD、メール相談、ライフイベント・ストレス『レジリエンス五・七・五』作成、SNS相談仕組み構築、ゲートキーパー連携センター運営

令和 5 (2023) 年度貸借対照表

(令和 6 年 3 月31日現在)

(単位：円)

資産の部		負債の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
流 動 資 産	3,033,008	流 動 負 債	1,209,677
現 金 預 金	1,573,193	未 払 費 用	1,209,677
未 収 金	132,000	固 定 負 債	0
立 替 金	1,166,850	負債の部合計	1,209,677
前 払 費 用	160,965	純資産の部	
固 定 資 産	12,138,498	基 本 金	10,000,000
基 本 財 産	10,000,000	国庫補助金等特別積立金	1,655,492
定 期 預 金	10,000,000	その他の積立金	0
その他の固定資産	2,138,498	次期繰越活動増減差額	2,306,337
建物附属設備	1,759,487	(うち当期活動増減差額)	(295,258)
器具及び備品	65,465		
権 利	313,545		
ソフトウェア	1	純資産の部合計	13,961,829
資産の部 合計	15,171,506	負債及び純資産の部合計	15,171,506

監 査 報 告 書

令和6年5月29日

社会福祉法人福島いのちの電話

理事長 丹 羽 真 一 殿

監 事 丹治正男 

監 事 犬出隆秀 

私たち監事は、令和5年4月1日から令和6年3月31日までの令和5年度の理事の職務の執行について監査を行いました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び職員等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに理事会その他重要な会議に出席し、理事及び職員等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査しました。以上の方法により、当該会計年度に係る事業報告及びその付属説明書について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該会計年度に係る計算関係書類（計算書類及びその付属明細書）及び財産目録について検討いたしました。

2 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその付属明細書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。

(2) 計算関係書類及び財産目録の監査結果

計算関係書類及び財産目録については、法人の財産、収支及び純資産の増減の状況を全ての重要な点において遡正に示しているものと認めます。

以上

令和 6 (2024) 年度事業計画

1. 事業計画策定に当たっての基本方針

警察庁統計（速報値）によると、令和 5 年における自殺死者数は全国で21,818人となり、前年より63人の減少となったことから、コロナ禍により 3 年連続の増加傾向にも歯止めが掛かった形となった。しかし、内容をみると、女性が171人の減少となった一方で、男性は前年より108人もの増加となっており、内容的には自殺者の増加傾向に必ずしも歯止めが掛かったとの考えは早計と言わざるを得ない。

令和 2 年から令和 4 年までの自殺死者数の急激な増加については、新型コロナウイルスによる経済の停滞が雇用の悪化を招き、さらに将来への不安が大きなストレスとなったことが大きな要因であるとも考えられていたが、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが昨年 5 月に「5 類」に移行してからは、「元の生活に戻れる」という解放感からか、それまで月別自殺者数が12ヶ月連続して前年を上回っていたが、5 月以降はほぼ前年を下回ってきたことが前年より63人の減少につながったものと、全体的には思料される。

翻って、福島県の状況をみると、令和 5 年の自殺者数は390人と、前年より10人も増えており 2 年連続しての 2 桁の増加は10年ぶりのこととなることから、今後の推移に関心を持たざるを得ないものの、月別自殺者数について 8 月以降が前年の 8 割程度に減少していることは注目に値する。

こうした状況を踏まえ「福島いのちの電話」における2024年度の活動方針は、「相談活動の充実・強化」、「相談環境の整備」、「広報活動の充実・強化」を図りつつ、「ゲートキーパー養成講習」、「メール相談」、さらには「SNS相談」の本格実施などに取り組むこととする。

さらに、東日本大震災から12年を経過するに伴い、顕在化しつつある＜震災原発事故の風化＞や＜ALPS処理水の海洋放出に伴う風評＞に対峙するため、日本いのちの電話連盟＜福島支援プログラム（①予約制フリーダイヤル、②「メール相談」など）＞を2024年度においても引き続き取り組むものとする。

2. 事業計画の概要

(1) 相談活動の充実・強化

ア. プロパー電話相談の実施

(024-536-4343。毎日10：00～22：00。毎月第 3 土曜日は24時間)

イ. 連盟事業「全国自殺予防フリーダイヤル」への参加

(0120-783-556。毎月10日 8：00～翌日 8：00)

ウ. いのちの電話「全国共通ナビダイヤル」

(0570-783-556。毎日10：00～22：00。但し、3 日前までに予約設定。アウトリーチ手法)

エ. 「ふくしま寄り添い＜予約制＞フリーダイヤル」事業

(0120-556-189。毎日10：00～22：00。但し、3 日前までに予約設定。アウトリーチ手法)

- オ. メール相談事業
(返信文は3日以内に送信)
- カ. SNS相談事業
(通年で週2日相談に応じられるよう体制の整備)
- キ. 相談員養成研修
 - ・第25期生の養成(第2課程)
 - ・第26期生の養成(第1課程)
- ク. 相談員研修の充実
 - ① 相談員継続研修
 - ・グループ研修(年10回)
 - ・個人スーパーヴィジョン(年1回)
 - ・全体研修(春・秋の年2回)
 - ② 内部リーダー養成特別研修(第4期)
 - ③ 外部の研修会等への参加
 - ・電話相談学会(オンライン開催)
 - ・自殺予防学会(埼玉県さいたま市)
 - ・全国研修担当者セミナー
- (2) 組織体制の整備充実
 - ア. 運営委員会及び各委員会等の定例開催による委員会活動の活性化
 - イ. 支部活動の活性化、本部と支部の連携強化
 - ウ. 連盟事業「ゲートキーパー連携センター」との協同
- (3) 財政基盤の強化
 - ア. 資金ボランティア会員の増強
 - イ. 公的助成充実への取り組み
- (4) 相談環境の整備
 - ア. 相談員ケア体制の充実(ケアのためのSV、ケア会議の開催等)
 - イ. 相談電話の双方向録音によるスキルアップ
 - ウ. 他センター相談員との交流事業
- (5) 広報活動の強化
 - ア. 広報誌発行(年2回発行)
 - イ. ホームページの充実
 - ウ. 相談員募集広報の強化(新聞広報等)
- (6) 相談員・研修担当のケア
 - ア. 相談員のケアに関する他センター訪問調査研修
 - イ. 研修担当者のケア
- (7) 公開講座等の実施
 - ア. 相談員養成の前提となる春季公開講座の開催<福島市(2回)、郡山市(2回)>
 - イ. 「いのちの大切さを考えるシンポジウム」の開催(おかあさん合唱連盟との共催)
- (8) ゲートキーパー養成講習の受託、講師派遣
 - ① プレ・ゲートキーパー養成講習
 - ② プライマリーコース<初心者対象>
 - ③ ステップアップコース<対象=プライマリーコース受講修了者>

令和 6 (2024) 度資金収支予算書

(2024年 4 月 1 日～2025年 3 月31日)

＜収入の部＞

(単位：円)

科 目	金 額	内 訳
会 員 寄 附 金	6,000,000	維持会員(個人・団体)、賛助会員(個人・団体)
一 般 寄 附 金	1,600,000	
福 島 県 補 助 金	8,200,000	自殺対策補助金4,200千円、コロナ対策補助金4,000千円
共 同 募 金 会	300,000	シンポジウム開催費
負 担 金	830,000	25期 (5 名)、26期 (20名)
雑 収 入	10,000	
合 計	16,940,000	

＜支出の部＞

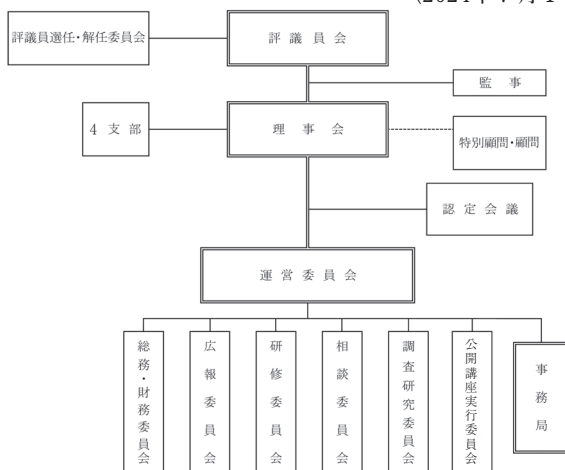
(単位：円)

科 目	金 額	内 訳
事 業 費	9,033,000	養成・継続研修、シンポジウム、電話・メール・SNS相談
事 務 費	3,370,000	賃借料、会議費、事業報告書
人 件 費	4,400,000	事務職員 1 名、非常勤 4 名、事務補助 3 名
予 備 費	137,000	
合 計	16,940,000	

* 日本いのち電話連盟事業「福島支援プログラム」=1,250,000円

社会福祉法人福島いのちの電話組織図

(2024年7月1日)



役員名簿（令和6年7月1日現在）

●特別顧問

遠藤 道雄 茂田 士郎

●顧問

遠藤 忠一 玄永 牧子 甚野源次郎 濱田千恵子
星野 仁彦 望木 昌彦 山川 彬 横山 光衛

★評議員会

石橋 真一 内山 清一 神戸 信行 紺野 学
齋藤 記子 佐藤 倫子 高野 武彦 村田 純子

☆理事長

丹羽 真一

☆副理事長

柳沼 純子

☆業務執行理事

遠藤 智子

☆理事

今野 孝敏 三瓶 弘次 古川 英雄 堀切 伸一
村上 敦浩

◎監事

大出 隆秀 丹治 正男

○事務局長

田邊 実

令和5年度ご支援下さった方々

福島いのちの電話の運営のために、次の方々にご支援いただきました。誠にありがとうございました。これからもご支援ご協力くださいますようお願い申し上げます。(敬称略、順不同)

1. 個人維持会員

会田美智男	藍原 政信	藍原 裕子	
アイル薬局住吉店	赤津 雅美		秋元登志夫
阿久津文作	浅野桂太郎	穴澤 正行	阿部 倫子
阿部 裕光	安斎 征治	飯塚 卓	五十嵐節子
五十嵐千恵	石井 浩	石井 幹子	石下 恭子
板橋 俊子	伊藤 典和	伊藤美知子	上嶋 明彦
上杉 洋子	内山 清一	内山三津男	宇津木洋美
遠藤 俊博	遠藤 智子	大石 邦子	大出 隆秀
大和田清司	岡田 麻紀	香山 雪彦	加藤 波子
神山 悦子	亀岡 偉民	菅家 俊一	菅家八栄子
菅野 和子	菅野 建二	菅野 民江	菅野 藤江
菅野 光枝	菅野 光代	菊嶋 健一	菊田 則雄
木村 福一	熊谷郁太郎	熊川由紀子	黒江 律子
黒沢 秀子	玄永 牧子	小泉 伸介	神戸 信行
古関 君子	小林 健夫	小林 直樹	近藤 哲
坂井 絹代	阪上 通明	佐藤 温史	佐藤久美子
佐藤 順子	佐藤 政隆	佐藤 倫子	佐藤富美子
佐藤真智子	佐藤百合子	三瓶 弘次	宍戸 俊子
宍戸 宏行	宍戸 幸雄	渋谷 順子	白岩 康夫
鈴木 和子	鈴木 忠一	鈴木芳喜法律事務所	
関口 祐子	平 信二	高木恵美子	高野 武彦
高橋 年光	高宮 光敏	竹川佳寿子	武田 正裕
玉木 仁彦	丹治千代子	丹治 正男	茶屋 明郎
寺島 長司	匿名希望1名	中村 基行	中村 礼子
二階堂茂子	西山 江美	丹羽 真一	根本 正子
野地 啓子	芳賀 裕	橋本 徹	長谷川 望
羽田 房男	半澤 トシ	番場トミ子	引地 知子
引地 正樹	平岩 幸一	廣川美智子	堀田 敬之
洞口 英子	堀切 伸一	本田 恵一	幕田 郁子
まちの薬局扇町店	町野 紳		松井千穂子
松谷 彰夫	松本 久子	松本 道子	真山 祐一

美田真理子	宮城 廣子	宮本しづえ	三好 正人
村上 信子	村越 栄子	森 綾子	森藤美津子
八島 恭子	安田 武吉	山崎誠一郎	唯木トシ子
遊佐 久男	陽田 正夫	吉澤萬里子	吉田キクエ
吉田 英策	吉田 嘉子	吉成内科	吉成 毅
柳内 務	渡辺キヨ子	渡部 純夫	渡邊 哲也
渡邊 素子			

2. 団体維持会員

明るい社会づくり運動郡山地区協議会 会長代行 佐藤 政喜
 一般財団法人太田綜合病院
 一般財団法人大原記念財団
 一般財団法人桜ヶ丘病院
 一般財団法人福島県自動車会議所
 一般財団法人ふくしま市町村支援機構 理事長 遠藤 雄幸
 一般社団法人福島県医師会
 一般社団法人福島県建設業協会
 一般社団法人福島県自動車整備振興会
 一般社団法人福島県精神科病院協会 会長 星野 修三
 医療法人板倉病院 院長 海野 幸浩
 医療法人鎌田クリニック 理事長 板垣 茂
 医療法人待井循環器科内科クリニック 理事長 待井 典剛
 医療法人道済会 みちや内科胃腸科
 磐城通運株式会社
 大蔵寺 拾井 一豊
 株式会社C I A
 株式会社環境分析研究所
 株式会社サン・ベンディング福島 代表取締役 千葉 政行
 株式会社総合コンサルタンツ 代表取締役 最上 諭
 株式会社テレビユー福島
 株式会社同仁社
 株式会社東邦銀行
 株式会社日新土建
 株式会社ファミリーケア
 株式会社福島銀行
 株式会社福島民報社
 株式会社マルト商事 代表取締役 安島 浩
 株式会社三宅新聞店 代表取締役 三宅 一秀

株式会社民報アド
株式会社山川印刷所 代表取締役 立花 志明
北関東空調工業株式会社
きらり健康生活協同組合
公益財団法人湯浅報恩会 寿泉堂綜合病院
公益社団法人福島県看護協会
公益社団法人福島県トラック協会
コバックス株式会社
社会福祉法人厚慈会
社会福祉法人育成会
社会福祉法人昌平賢
社会福祉法人なごみ
社会福祉法人緑風福祉会
宗教法人安洞院
東北電力株式会社福島支店
東北労働金庫福島県本部
富久泉工業株式会社
長橋病院
日榮工業株式会社
日本キリスト教会福島伝道所
針生ヶ丘病院
ひろやまメンタルクリニック 廣山 祐治
福島稲荷神社 宮司 丹治 正博
福島県市長会
福島県信用保証協会
福島県図書教材協会
福島市仏教会
福島信用金庫
福島テレビ株式会社 代表取締役社 長横 山淳
福島民友新聞株式会社
福島ヤクルト販売株式会社
保原自動車学校
康善寺
矢吹自動車教習所
有限会社タロサ
有限会社福島コスモ商会
有限会社みどり薬局
立正佼成会茨城教会

3. 賛助会員（個人）

青木 英子	秋元登志夫	有馬 美代	安齋 孝意
安齋 睦男	大木内科医院	大木 厚	大和田清司
栗林 正樹	小林 健夫	坂本 和司	佐々木慶子
佐藤 正美	佐藤ユキ子	佐藤 由美	佐野 勝俊
三瓶 弘次	柴山 邦雄	田中 文博	谷口 晶貴
玉木トヨ子	丹野 一男	東原 康文	永井 久雄
根本 正子	馬場医院	小鹿山博之	濱田千恵子
松本 純	安海 好昭	若林 愛	渡辺とくい
亘理 正明			

4. 賛助会員（団体）

一般財団法人竹田健康財団
医療法人落合会
医療法人敬仁会 なかのクリニック
医療法人慈心会 村上病院
医療法人社団石福会 四倉病院
岩代ライオンズクラブ 会長 菅野 雅利
株式会社サンライト
株式会社大丸工務店
株式会社トヨタレンタリース福島
株式会社ハッピーケア 代表取締役 海老根 潤
株式会社原町自動車教習所
株式会社原町中央自動車教習所
株式会社ボーダレス総合計画事務所 代表取締役 鈴木 勇人
株式会社松崎
倉島商事株式会社
小林土木株式会社
生活協同組合コープあいづ
定山会 会長 渡辺 平雄
特定非営利活動法人エルタ
二本松あだたらロータリークラブ
福島県町村会
堀江工業株式会社

5. 喜多方支部・個人維持会員

青山 榮子	赤城恵美子	穴澤 高子	荒川 節子
荒川 裕子	安倍 香奈	五十嵐 聡	五十嵐知枝

五十嵐裕美	伊勢亀幸男	岩田 綾子	上野 啓介
梅宮 大樹	梅宮 美喜	遠藤 貴子	遠藤 次男
遠藤 敏子	遠藤 英昭	遠藤 昌幸	遠藤美智子
大関さち子	大竹小百合	大塚 香子	大野 京子
大原 尚子	小椋 和洋	笠間 敬子	風間 俊恵
片桐ゆり子	唐橋 和美	唐橋 美香	川口 理香
杵渕テル子	日下 彩芳	草刈 牧子	小林 弘子
小松 祐子	齋藤マサ子	齋藤 祐子	坂本真理子
相良 静雄	相良 由紀	佐々木恵津子	佐藤 富子
佐藤 秀夫	佐藤 文子	佐藤 美穂	佐藤 恵
佐藤 有子	佐野 圭一	志田 公司	鈴木 貴子
鈴木ちひろ	鈴木 敏憲	鈴木 優子	須田 栄晋
須田 恭広	須藤 茂樹	須藤 俊弘	清野 弥生
清野 洋一	関本 克聡	高久 俊秋	高橋 敏衛
高橋 美幸	田澤 節子	立川 貴之	田中 喜作
田中 幸悦	棚木 加奈	田部 芳子	東條 孝雄
東條千登勢	外島千鶴子	富山 雅子	豊子 光代
生江 恭子	成田 美穂	西 浩美	二瓶 藤一
橋谷田真由美	花見 博文	原 倫子	坂内 孝夫
平田 広美	広井トヨ子	古川 英雄	星 幸奈
梶川 恵	松尾 勝貴	松下 智明	松本 恵美
三橋 彦也	皆川 共子	武藤 顯夫	武藤 陽子
武藤喜代次	武藤 良太	村澤 健一	室井麻富花
物江 昌子	矢部 薫	山内智恵子	山口 愛子
山口 史明	山崎三枝子	横澤 栄子	横山 憲一
吉川 昭	渡辺 慶子	渡部 敬二	渡部 孝一
渡邊 幸子	渡辺 俊明	渡部みい子	渡部 要子

6. 喜多方支部・団体維持会員

会津喜多方商工会議所
 会津よつば農業協同組合
 明るい社会づくり運動喜多方地区協議会
 一般社団法人喜多方医師会
 喜多方グリーンホテル
 喜多方市熱塩加納町民生児童委員協議会
 喜多方市岩月町民生児童委員協議会
 喜多方市上三宮町民生児童委員協議会
 喜多方市熊倉町民生児童委員協議会

喜多方市慶徳町民生児童委員協議会
 喜多方市塩川町民生児童委員協議会
 喜多方市食生活改善推進員会
 喜多方市関柴町民生児童委員協議会
 喜多方市第一地区民生児童委員協議会
 喜多方市第二区民生児童委員協議会
 喜多方市高郷町民生児童委員協議会
 喜多方市豊川町民生児童委員協議会
 喜多方市ボランティア連絡協議会
 喜多方市松の木女性コーラス
 喜多方市松山町民生児童委員協議会
 喜多方市民活動サポートネットワーク
 喜多方市役所課長会
 喜多方市役所部長会
 喜多方市山都町民生児童委員協議会
 国際ソロプチミスト喜多方

7. 喜多方支部・賛助会員

青木 照夫	伊藤 一男	伊藤 慎一	神蔵 良太
川口 良平	菊地 節子	北見美代子	小林 雅弘
長谷沼幸造	平田真由美	若林 大蔵	渡部 忠寛
渡部ミツイ	遠藤 実		

8. 南相馬支部・個人維持会員

朝倉美智子	伊賀 淳	石垣 清子	石橋 三男
江尻 久子	太田 光秋	金澤 幸夫	熊倉 徹雄
佐藤 一男	佐藤 清彦	高根 富三	長岡 利幸
番場三和子	平戸 隆子		
ほりメンタルクリニック	堀 有伸	湊 清一	
村上 勇一	村田 純子	村田 秀人	渡部 喜照

9. 南相馬支部・団体維持会員

公益財団法人金森和心会 雲雀ヶ丘病院
 NPO法人ほっと悠
 一般社団法人原町青年会議所
 株式会社原町日通自動車修理工場
 東北建設株式会社
 特別養護老人ホーム福寿園

ニッソーレンタリース株式会社 代表取締役 日下 匡美
 日本オートマチックマシン株式会社 原町事業
 原町建設機械株式会社
 原町赤十字奉仕団
 丸三製紙株式会社
 関場建設株式会社 代表取締役社長 関場 直隆

10. いわき支部・個人維持会員

阿部 聖子 宮川えみ子

11. いわき支部・団体維持会員

明るい社会づくり運動小名浜常磐地区協議会 会長 下山田 祐司
 平中央自動車学校

12. いわき支部・賛助会員

NPO法人子どもの家 阿邊 みどり 志賀 美恵
 谷口 孝一

13. 郡山支部・個人維持会員

青木 淑子	青山 玲子	安瀬ちえ子	厚海 留美
穴澤 初美	穴澤 洋美	安部 寿美	荒井 祐子
安斎 春江	安斎 洋子	飯島 直子	飯村 亜以
伊佐 香苗	石田 宏寿	井田川春子	伊藤 典子
井上貴代江	井上 好恵	猪俣 浩一	猪俣 三保
猪俣美和子	岩崎 敦子	岩崎 恵子	岩瀬左代子
磐瀬 祐子	上野 和恵	薄井真理子	歌川 恵子
江間久美子	遠藤 君子	遠藤美佐子	遠藤めぐみ
遠藤 利子	遠藤 絵美	網田 雄治	大河原輝子
大槻 裕子	大戸 康子	大橋 敏子	大藤しのぶ
大森みゆき	岡部 秀子	奥山千鶴子	小椋沙由理
小山内恵合	押山 文子	小野 喜世	過足 理香
角田 文代	影山 春代	影山 浩美	影山 貢
景山かおり	影山美保子	加藤まり子	加納 里美
鎌田 真理	関 由美子	菅家美和子	菅野多美子
菅野 美喜	菊地かおり	菊地 聡恵	岸波 郁子
木本沙緒里	國定 俊彦	久保木優佳	熊坂 忠則
桑名 静	小泉 智子	郷 智子	國分 明子
國分 紘一	小柴 尚子	古宮 功子	近藤 チョ

近藤まち子	根本由美子	齋藤 篤子	齋藤 榮子
齋藤千代子	齋藤のぶ子	齋藤 マキ	齋藤 靖子
相良 淳子	佐川 翔	佐久間純子	佐々木泰道
佐藤 豊子	佐藤 寛美	佐藤 正子	佐藤マチ子
佐藤美恵子	佐藤 香織	佐藤智佳子	佐藤 康子
佐藤 恵子	佐藤 美枝	佐藤 美幸	三瓶 宏美
塩田 裕子	塩田 絵美	白石とも子	白戸亀代子
新林 康行	菅田伊津美	鈴木 待子	鈴木 利光
鈴木奈緒美	鈴木美賀子	鈴木由美子	千田香奈子
添田 啓子	田井さやか	大向 昭子	高橋 幸子
高橋 絵美	滝田 恵	田中 淑子	田中 澄子
田邊 実	玉井寿美子	田母神章子	田母神光男
富永國比古・久美子		富山美津江	長尾トモ子
永峯 隆子	中山 美幸	永山 義弘	名知 幸恵
七海 憲枝	生田目早苗	西牧 美恵	新国 茂
布川 早苗	芳賀 善正	芳賀 信子	橋本 由美
橋本 早美	長谷川美香	八賀 好美	馬場 智恵
半澤 和	樋口 勝子	飛田 弘子	飛田 操
福本友紀子	冬室加代子	古川 熙子	蛇石 郁子
星美 穂子	堀 祐子	増子 松代	松崎佳小里
三澤可能子	水野 淳子	三津石恵子	宗形 明子
宗像智恵子	宗形 善貞	村上千津子	八重樫小代子
八代 育郎	八代嘉津子	箭内 喜訓	柳田 公子
柳沼 純子	横山ユキ子	吉田 朋子	吉成 妙子
吉成 夏子	吉野真知子	渡邊 一美	渡辺 順子
渡辺 真紀	渡部 裕子	渡辺 佳子	渡邊 廣孝

14. 郡山支部・団体維持会員

株式会社西部開発 代表取締役 丹治 洋
 株式会社富久山自動車教習所
 浅木整形外科医院
 太田メンタルクリニック 院長 太田 聖一
 株式会社エフコム
 国際ビジネス公務員大学校
 佐藤燃料株式会社
 社会福祉法人共生福祉会
 日専連郡山女性部会

15. 郡山支部・賛助会員

大桃たか子 株式会社菅家経営センター
小齋 恭子 佐々木敏彦 高橋恵美子
結いの里「竹柳庵」

16. 歳末特別寄付

株式会社西部開発代表取締役 丹治 洋
株式会社富久山自動車教習所
(弁)鈴木芳喜法律事務所 (有)安斎木工所 安齋 康男
NPO法人ほっと悠 会田美智男
会津よつば農業協同組合喜多方支店 藍原 裕子
アイル薬局住吉店 赤津 雅美 青山 榮子
明るい社会づくり運動郡山地区協議会 会長代行 佐藤 政喜
明るい社会づくり勿来地区協議会 内田 一久
秋元登志夫 朝倉美智子 網代 智明
東信建設株式会社 代表取締役 佐久間政文
安達ライオンズクラブ会長 松本 明雄
阿部 聖子 阿部 倫子 阿部 裕光 荒川 節子
有賀 清 有馬 美代 安斎 孝意 安斎 春江
伊賀 淳 石垣 清子 石下 恭子 石田 宏寿
石橋建設工業株式会社 代表取締役 石橋 英雄
一般財団法人竹田健康財団
一般財団法人福島県自動車会議所
一般財団法人ふくしま市町村支援機構理事長 遠藤 雄幸
一般社団法人福島県医師会
伊藤 典和 伊藤美知子 猪俣 慧
医療法人落合会
医療法人社団石福会 四倉病院
医療法人社団茶畑会 相馬中央病院
医療法人内科・消化器科みつはし医院
いわき平中央ロータリークラブ 上野 啓介
内山 清一 海野志ん子 江河 佑 江尻 久子
遠藤 次男 遠藤 敏子 遠藤 俊博 遠藤 智子
遠藤 道雄 大出 隆秀 大木内科医院 大木 厚
太田総合病院看護部 太田 光秋 大桃たか子
岡本 恒夫 小口 潔子 香山 雪彦
鏡石ライオンズクラブ事務局 面川 正彦
角田 文代 笠間 敬子

学校法人聖光学院 理事長 新井 秀 金澤 博信
 株式会社環境分析研究所
 株式会社サン・ベンディング福島 代表取締役 千葉 政行
 株式会社サンライト 株式会社ジー・アイ・ピー
 株式会社総合コンサルタンツ 代表取締役 最上 諭
 株式会社大丸工務店 株式会社同仁社
 株式会社トヨタレンタリース福島
 株式会社ナプロアース 株式会社日新土建
 株式会社ハッピーケア 代表取締役 海老根 潤
 株式会社原町中央自動車教習所
 株式会社マルト商事 代表取締役 安島 浩
 株式会社三宅新聞店 代表取締役 三宅 一秀
 株式会社民報アド
 株式会社リオン・ドールコーポレーション
 株式会社原町日通自動車修理工場
 鎌田クリニック院長 板垣 茂 神山 悦子
 川内村社会福祉協議会 会長 遠藤 雄幸 菅家八栄子
 菅野 建二 菅野 藤江 菅野 光代 菊嶋 健一
 喜多方グリーンホテル 北関東空調工業株式会社
 國定 俊彦 熊谷郁太郎 熊代 永 車谷 栄子
 黒江 律子 黒沢 秀子 桑名 利直 桑名 俊光
 玄永 牧子 公益財団法人星総合病院 森原
 高蔵寺 木村 照典 郷 智子 國分 紘一
 古関 君子 コパックス株式会社 小林 健夫
 小林土木株式会社 古宮 功子 近内 利男
 近藤 哲 近藤まち子 齋藤のぶ子 阪上 通明
 佐々木慶子 佐々木泰道 笹原 和子 佐藤 綾子
 佐藤 温史 佐藤 一男 佐藤工業株式会社
 佐藤 順子 佐藤燃料株式会社 佐藤 秀夫
 佐藤 政隆 佐藤 正美 佐藤真智子 佐藤 由美
 佐藤 佳子 三瓶千恵子 三瓶 弘次 塩見 元彦
 宍戸 宏行 柴田 裕子 渋谷 順子 島田まゆみ
 清水 明美 社会福祉法人厚慈会
 社会福祉法人昌平養 宗教法人安洞院
 小丸 知香 白岩 康夫 白戸亀代子
 須賀川ライオンズクラブ 鈴木 恵子 鈴木修一郎
 鈴木 貴子 鈴木 敏憲 鈴木 美江 関口 祐子
 添田 啓子 高根 富三 高野 武彦 高橋 年光

立花 スエ	田中 喜作	田中 文博	田中 淑子
谷口 孝一	田部 芳子	玉木 仁彦	丹治千代子
丹治 正男	東原 康文	東條 孝雄	
東北労働金庫福島県本部		特定非営利活動法人エルタ	
富塚美貴子	富永國比古	富久泉工業株式会社	
富山 雅子	永井 久雄	長岡 利幸	中尾 誠利
中野 真理	長橋病院	生田目早苗	
ニッソーレンタリース株式会社	代表取締役	日下 匡美	
日本基督教団福島教会		日本基督教団福島伊達教会	
丹羽 真一	根本 克治	ノートルダム修道院	
羽金 淑江	芳賀 信子	芳賀 善正	橋本 徹
早坂 薫	原町建設機械株式会社		番場三和子
平岩 幸一	平田真由美	平戸 隆子	広井トヨ子
廣澤 克子	福島YWCA		
福島稲荷神社宮司	丹治 正博		
福島民友新聞株式会社		福島ヤクルト販売株式会社	
福島ロータリークラブ		藤沢 愛	藤田 大
古川 熙子	文永山鎌秀院		
保原自動車学校		堀江工業株式会社	
堀切 伸一	ほりメンタルクリニック	幕田 郁子	
まちの薬局扇町店	町野 紳	松本 純	
馬目 重信	三澤可能子	南福島ひまわりクリニック	
村上 敦浩	村上 勇一	村田 純子	村田 秀人
毛利 靖子	物江 昌子	森 綾子	門馬 孝子
八代 育郎	八代嘉津子	矢吹自動車教習所	
矢部恵美子	矢部 薫	山口 信雄	
山口薬品株式会社		山田 政雄	唯木トシ子
有限会社みどり薬局		横田亀久恵	横山 憲一
吉川 昭	吉澤萬里子	吉田 和代	吉田 英策
吉田 嘉子	吉成内科	吉成 毅	渡邊 一美
渡部 喜照			
渡辺経営コンサルタント事務所	代表	渡辺 雅文	
渡部 啓子	渡辺 慶子	渡邊サイ子	渡部 純夫
渡邊 廣孝	渡邊 素子	渡邊 良子	藁谷 和子

17. 一般寄付者

遠藤 洋子	亀山 綾子	菅野美恵子	菅野 光枝
今野 孝敏	佐藤賀津雄	三瓶 弘次	宍戸 俊子

宍戸 悠子	宍戸 幸雄	高久 敏明	匿名1名
二階堂晃子	福島いのちの電話バザー会		福島県民共済
福島大学教育心理専修生懇親会一同			横田多恵子
吉田亜紀子	渡部信一郎		

各種団体等からの補助金・助成金

福島県自殺対策緊急強化事業民間団体補助金
福島県新型コロナウイルス自殺対策補助金
社会福祉法人福島県共同募金配分金
公益財団法人J K A
福島県コンベンションビューロー
郡山市コンベンションビューロー

あなたもボランティアの仲間になりませんか

相談員になる

会員になる

講演会を聞く…などなど様々な参加方法があります。

福島いのちの電話にあなたの善意を…

いのちの電話の運営資金の多くは、民間の個人・団体（企業）の善意により支えられています。電話相談員の養成費・研修費・施設の賃料などの運営にも充てていますので、ぜひ、あなたも会員として福島いのちの電話を支えてください。

個人維持会員（年額一口）：1万円 5千円 3千円 2千円

団体維持会員（年額一口）：10万円 5万円 3万円 1万円

賛助会員（任意の金額を随時にお寄せください。）

お振込のご案内 名義は社会福祉法人福島いのちの電話です。

郵便振替：02140-7-16968

他の金融機関をご利用の方は、事務局までお問合せください。

「社会福祉法人福島いのちの電話」の会費及び寄付は、税法上の優遇措置が受けられます。

匿名希望の方は、お申し出下さる様お願い致します。

※優遇措置を受けられる税金（所得税、個人県民税、一部の市町村は個人市町村民税も）

なお、支部の会員となって、支部の口座にお振込みいただくこともできます。（下表をご覧ください。）

喜多方支部	喜多方市上江3646番地1 （喜多方市社会福祉協議会） TEL 0241-23-3231	郵便振替 02210-1-96111 名義：社会福祉法人福島いのちの電話 喜多方支部
南相馬支部	南相馬市原町区小川町322-1 （南相馬市社会福祉協議会） TEL 0244-24-3415	郵便振替 02140-7-16968 名義：社会福祉法人福島いのちの電話 南相馬支部
郡山支部	郡山市朝日1丁目29-9 （郡山市社会福祉協議会） TEL 080-2843-0268	郵便振替 02140-7-16968 名義：社会福祉法人福島いのちの電話 郡山支部



年中無休 午前10時～午後10時
(毎月第3土曜日は午前10時から翌日午前10時まで)

ひとりぼっちで悩まずに

しみじみ
TEL **024-536-4343**

フリーダイヤル 毎月10日 午前8時～翌朝8時

自殺予防いのちの電話

なやみ ころ
TEL **0120-783-556**

〈相談時間〉午前10時～午後10時(3日前までに予約)

ふくしま寄り添い(予約制)フリーダイヤル

ころ いちばんやさしく
TEL **0120-556-189**

〈相談時間〉午前10時～午後10時

ナビダイヤル

なやみ ころ
TEL **0570-783-556**

メール相談 ホームページから「メール相談」を送信できます。

〈福島いのちの電話では、掛けてこられた方の相談内容をよりよく聴くために、相談員の研修目的に限り電話を録音しています。〉

メール相談



LINE相談



ホームページ

<https://www.fukushima-inochi.com/email-consultation.html>

社会福祉法人
福島いのちの電話

事務局／〒960-8691 福島中央郵便局私書箱15号
TEL.024-536-0032 FAX.024-536-2840
URL <http://www.fukushima-inochi.com/>

